



Photostud

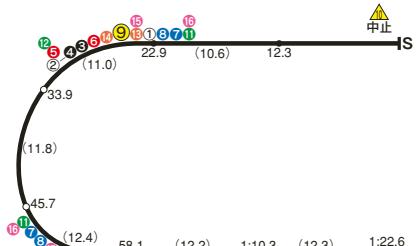
## THE NEGISHI STAKES

## 第39回 根岸ステークス (GIII)

本賞	40,000,000円	2着	16,000,000円	3着	10,000,000円	4着	6,000,000円	5着	4,000,000円
付加賞	560,000円		160,000円		80,000円				



レース映像は  
コチラでご覧  
いただけます。



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m  
33.9 - 45.7 - 58.1 48.7 - 36.9

2025.2.2 東京 墓・稍重 ダ1400m (国際) 指定

順位	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー (着差)	上り	馬体重	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑨	コスタノヴァ	牡5	57	横山武史	1:22.6	8-7	35.9	496(-1)	4.8②	木村哲也(美浦)	113
2	⑩	ロードフォンス	牡5	57	横山和生	4	9-9	34.5	494(+0)	6.6③	安田翔伍(栗東)	104
3	⑪	アルファマム	牝6	55	R.キング	2	14-14	35.7	466(+2)	20.0⑦	佐々木晶三(栗東)	96
4	⑤	サンライズフレイム	牡5	57	藤岡佑介	1	2-2	38.0	522(-6)	7.8④	石坂公一(栗東)	98
5	①	クロジショージャー	牡6	57	浜中俊	¾	11-10	36.9	460(+8)	26.0⑧	岡田福男(栗東)	
6	⑥	フリームファクシ	牡5	57	M.デムーロ	½	12-12	36.7	524(-2)	2.7①	須貝尚介(栗東)	
7	⑯	スレイマン	牡7	57	西村淳也	クビ	7-7	37.4	548(±0)	26.3⑨	池添学(栗東)	
8	⑮	ショウナンライシン	牡5	57	菅原明良	¾	9-11	37.1	502(+14)	85.2⑬	大竹正博(美浦)	
9	④	アームズレイン	牡5	57	岩田望来	1½	4-4	38.2	512(+12)	19.8⑥	上村洋行(栗東)	
10	⑫	サトノルフィアン	牡6	57	横山典弘	¾	2-2	38.8	518(-12)	26.8⑩	高橋康之(栗東)	
11	③	メイショウウテンスイ	牡8	57	吉田豊	½	5-5	38.3	530(-12)	302.9⑩	河内洋(栗東)	
12	⑯	スズカコテキタイ	牡6	57	内田博幸	½	14-14	36.9	508(+8)	282.4⑩	村上武(美浦)	
13	②	ドンフランキー	牡6	57	池添謙一	2	1-1	39.5	604(-1)	9.1⑤	斎藤宗史(栗東)	
14	⑦	エイシンスポットター	牡6	57	津村明秀	½	13-13	37.7	502(-6)	103.8⑩	吉村圭司(栗東)	
15	⑥	パリサムノート	牡5	57	松岡正海	7	6-6	40.0	512(-10)	77.0⑩	高野友和(栗東)	
中止	⑩	タガノビューティー	牡8	59	石橋脩		522(+5)	30.3⑩			西園正都(栗東)	

単勝①460円(2%) 複勝①190円(2%) ⑩220円(3%) ⑪460円(6%) 枠連⑤-⑦1,240円(5%)

馬連③-⑩1,470円(4%) ワイド⑨-⑩600円(4%) ⑨-⑪1,590円(17%) ⑩-⑪1,570円(16%)

馬單⑩-⑬2,550円(6%) 3連複①-⑪⑩8,070円(30%) 3連単⑨-⑩-⑪31,220円(92%)

5重勝⑦①④⑪⑩121,304,820円(5票) 対象競走：京都10R／東京10R／小倉11R／京都11R／東京11R

### アラカルト

- 横山武史騎手は根岸S初勝利。JRA重賞は通算24勝目
- 木村哲也調教師は根岸S初勝利。JRA重賞は通算32勝目
- ロードカナロア産駒はJRA重賞通算81勝目
- 5歳馬の勝利は23年レモンポップに続く通算12回目
- タガノビューティーは発走直後につまずき、騎手が落馬したため競走中止
- 非抽選馬 7頭(タイセイサムソン、ナスティウェザー、ナチュラルハイ、バトゥーキ、バトルクライ、ベリエール、ペルダーメル)
- コスタノヴァはフェブラリーS(GI)に優先出走できる

# コスタノヴァ Costa Nova

牡 鹿毛 2020.4.3生

北海道安平町 ノーザンファーム生産  
馬主・吉田勝己氏 美浦・木村哲也厩舎  
馬名意味・ポルトガル北部のリゾート地

トロピカルブラッサムUSA系 F19		
ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	レディブラッサム 鹿毛 1996	Storm Cat サラガデュUSA
カラフルブラッサム 鹿毛 2010	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA アイリッシュダンス
	トロピカルブラッサムUSA 鹿毛 1998	Thunder Gulch Barbara Sue

5代までのインブリード : Mr.Prospector S 4×M5 Storm Bird S 4×M5

## INTERVIEW

佐々木淳吏厩舎長(ノーザンファーム空港)

### 想像以上に強いレースを見せてくれました

芝適性の高さを感じさせる血統のイメージですが、動きにはいい意味での硬さがあり、走りがピッチ走法だったので、ダートの適性もあるのではないかと思っていました。脚元が固まってきたことに気性面の成長が伴ったことで、安定した活躍が見込めるようになりました。東京のダートは得意な条件ではありましたが、想像以上に強いレースを見せてくれました。



JBCスプリントの覇者タガノビューティーがスタート直後に落馬し、競走を中止。このアクシデントを尻目に3週間後に迎えたフェブラリーSの前哨戦「根岸S」は「ダート重賞未勝利」の馬たちが実績上位の面々を捉えて中堅勢力を形成。2年前のきさらぎ賞の優勝馬で、3走前にダート戦へ矛先を転じてからメキメキと頭角を現してきたルーラーシップ産駒フリーマンファクシングが頭ひとつ抜けた支持を集めました。とはいえ、2着を占めたのは、ダートで着々と実績を積み上げてきた2、3番人気のロードカナロア産駒。なかでも対抗候補と目されていたコスタノヴァアが目を見張るような圧勝劇を演じ、本番の有力候補に浮上した。

芝の初陣は大敗を喫した本馬だが、ダートに照準を定めた2戦目以降は順風満帆にステップアップ、昨年5月の櫻Sではエンペラーワーケアを下してオーブン初勝利を挙げた。8月のクラス

### 父ロードカナロア

北海道新ひだか町 ケイアイファーム生産 中央、香19戦13勝(香港スプリントG1 2回、安田記念G1、スプリンターズS G1 2回、高松宮記念G1)、年度代表馬、最優秀短距離馬2回、14年から供用。20~24年日本リーディング2位【代表産駒】アーモンドアイ(ジャパンC G1 2回、ドバイターフ・首G1、天皇賞(秋)G1 2回、桜花賞G1、オクスG1)、サートゥルナーリア(皐月賞G1、ホープフルS G1)、ダノンスマッシュ(香港スプリントG1、高松宮記念G1)、パンサラツサ(ドバイターフ・首G1、サウジC・沙G1)、ペラシオオペラ(大阪杯G1)、ステルヴィオ(マイルチャンピオンシップG1)、タガロア Tagaloa(ブルーダイヤモンドS・豪G1)、ファストフォース(高松宮記念G1)、ブレイディヴェーヴ(エリザベス女王杯G1)、ダノンスコーピオン(NHKマイルC G1)、コスタノヴァ(本馬)、レッドドレゼル(BCSスプリントJpn I)、他に重賞勝ち馬多数

### 母カラフルブラッサム

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央23戦3勝  
リレーションシップ(17 牡父ルーラーシップ)中央26戦4勝(戎橋S)、障害8戦1勝(奥)  
カラレーション(18 牡父キングカメハメハ)中央24戦1勝、地方1戦1勝  
カラーレインデックス(19 牡父ハービンジャーGB)中央19戦0勝、地方6戦2勝  
**コスタノヴァ** 本馬(20 牡父ロードカナロア)中央8戦6勝(根岸S 3着、櫻S 0着、白嶺S、アプローズ賞)、地方1戦0勝 獲得総賞金117,321,000円(21 牡父ロードカナロア)  
ファイアンクランツ(22 牡父ドゥラメンテ)中央4戦1勝(札幌2歳S GIII 3着)  
(現)  
(23 牡父マクフィGB)  
(24 不受胎)

### 祖母トロピカルブラッサムUSA

北米3勝(スター・ボールH、ミレイディH G1 3着、クレメントLハーシュH G2 3着)、04年輸入、20年用途変更

ピラニハイウェイ(05 牡父Silver Deputy)持込 中央6勝(アルデバランS 0着、サンタクロースS)、地方2勝(浦和記念Jpn II、佐賀記念Jpn III)カラフルブラッサム(10 前出)  
パガットケープ(14 牡父ハーツクライ)中央2勝、地方5勝

### 曾祖母バーバラスー Barbara Sue

アメリカ産 北米12勝(チャパラルBCH、ファールセイルH)、ダイヤモンドオンザラン Diamond on the Run(ダヴォナデイルS・米G2)の母

# ダート界の次代を担う有力候補が浮上

走を中止。このアクシデントを尻目に先手を奪った短距離重賞3勝の快足馬ドンフランキーに、サンライズフレイム、サトルルフィアンが絡み、レースは速い流れで進む。コスタノヴァの横山武史騎手は初めてコンビを組んだ馬と呼吸を合わせて課題のスタートを決めて、中団の内を追走。直後の外に3番人気のロードフォンスが続き、ゲートで立ち遅れたフリーマンファクシングは4番手で直線勝負に構えた。レースを引っ張った3頭は横並びの態勢で4コーナーをターン、直線に向いてからも激しく火花を散らす。しかし馬場の真ん中へ持ち出した横山武騎手が坂の上りで仕掛けると、コスタノヴァは別格の末脚を發揮してたちまち先頭へ。そこからは独壇場となり、最後は手綱を緩められながらも、2着に追い込んだロードフォンスに4馬身差をつけてゴールに飛び込んだ。

芝の初陣は大敗を喫した本馬だが、ダートに照準を定めた2戦目以降は順風満帆にステップアップ、昨年5月の櫻Sではエンペラーワーケアを下してオーブン初勝利を挙げた。8月のクラス

ターキーは出遅れて6着、秋の武蔵野Sは外傷のアクシデントのため回避を余儀なくされたものの、熊勢を立て直させて臨んだこの日は負け知らず(4戦4勝)の東京コースで躍動。重賞初制覇を果たすとともに、ダート界の次代